

2020年4月10日
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平
担当ワーキンググループ主査 谷本 寿男

環境社会配慮ガイドライン包括的検討ワーキンググループ
⑥労働・汚染管理・コミュニティに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2020年3月23日（月）14：00～16：58
- ・場所：JICA 本部（1階 111 会議室）
- ・ワーキンググループ委員：
会議室参加：石田委員、織田委員、作本委員、柴田委員、谷本委員、村山委員、山岡委員
Skype 参加：林委員、木口委員（オブザーバー）
- ・議題：環境社会配慮ガイドライン包括的検討⑥労働・汚染管理・コミュニティについての助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) 【事前配布資料 1】環境社会配慮 GL 包括的検討⑥労働、汚染管理、コミュニティ_論点 6.
 - 2) 【事前配布資料 2】環境社会配慮 GL 包括的検討⑥労働、汚染管理、コミュニティ_論点 6.2
 - 3) 【事前配布資料 3】環境社会配慮 GL 包括的検討⑥労働、汚染管理、コミュニティ_論点 6.3
 - 4) 回答表

全体会合（第 112 回委員会）

- ・日時：2020年4月10日（金）14:00～17:33
- ・場所：Skype 会議

上記の会合にて助言を確定した。

助言

【6.1ESS2 労務管理手順、労働安全衛生対策の参照の要否】

1. 労務管理や労働者の安全・健康について、世界銀行の ESS2 に記載されている項目は、JICA と相手国／実施機関が合意する契約一般条項において一部言及があり、実施機関とコントラクター等の契約約款において、Multilateral Development Bank Harmonised Edition の契約約款（General Conditions）を参照する形で一定の対応を求めている。これらの項目を環境社会配慮の範疇とし、環境社会配慮ガイドライン（以下、「JICA GL」）に記載する範囲と契約等それ以外の方策で対応する範囲を整理したうえで、ESS2 の趣旨を踏まえた検討をすべきとの意見があった。

【6.2ESS3 有害廃棄物、有害化学物質、害虫管理に係る要件の参照の要否】

2. 世界銀行の ESS3 に記載のある化学物質や有害物質への対応について、現行 JICA GL に基づく運用においても相応の配慮がなされてきたものと考えられるが、対象とする物質、およびその基準の考え方や検討の手順について、JICA GL への記載要否を含めた扱いを明確にすべきとの意見があった。
3. 病虫害管理については、農薬管理の取り扱い方が国により異なる点について留意しつつ、総合的病虫害管理（IPM/IVM）の観点から JICA GL に盛り込むか検討すべきとの意見があった。

【6.3ESS4 緊急事態対策、有害廃棄物、域外労働者の流入、保安員リスク、事業の影響を受ける可能性のあるコミュニティ安全性確保の配慮項目への追加】

4. 世界銀行の ESF に含まれている項目のうち、工事中の安全配慮等について、環境社会配慮の範疇とし JICA GL に記載する範囲と、契約等それ以外の方策で対応する範囲、を整理したうえで、JICA GL への記載の要否を検討すべきとの意見があった。
5. 構造物の安全性が脅かされ、しかも当初の想定を超える災害等が生じた場合の緊急事態対策について、ハード面のみならず、ソフト面でも関係機関等との連携を通じた研修の実施や日本国内の事例紹介等の技術協力を行う必要があるとの意見があった。緊急対応計画（ERP：Emergency Response Plan）については、現行の「ODA 建設安全管理ガイドランス」の下で、建設段階に対する配慮は既にある程度実施されてきてはいるものの、対象は建設工事に関わる事業関係者に限定されていることから、供用段階に特にコミュニティへ影響が大きいと予想される構造物の場合には、地域の安全性とレジリエンスの観点から、世界銀行 ERP を参考にした計画の作成や実施について、JICA GL への記載の要否を検討する必要があるとの意見があった。
6. 世界銀行の ESS4 "Community Health and Safety"のうち、Health の日本語訳は「衛生」ではなく、「健康」あるいはもっと幅広い意味をもった単語をあてるべき。"Health"の意図するところは単なる身体的な健康だけの意味ではなく、性的搾取・虐待及びセクシャルハラスメント（SEAH：Sexual Exploitation, Abuse, and Harassment）やジェンダ

一に基づく暴力（GBV：Gender Based Violence）も含むハラスメント、さらに HIV/AIDS 以外の感染症も含めるべき点に留意が必要。特定の疾患のみをこのまま例示すると、範囲を狭める可能性がある一方で、一般的な記載方法では見えにくい健康被害全体が見落とされる危険があるとの懸念が示された。

7. ESS4 では生態系サービス（Ecosystem services）への影響にも言及されているが、生態系サービスに依存しているコミュニティも見受けられることから、JICA GL でのこの取り扱いについて検討すべきとの意見があった。

以 上